

# Y 2008 No.38



これは世につたえておきたい  
かたっておきたい  
わが胸の底から真実のおもい  
人生幾山河のめぐりあい  
あの日の風やひかり そして空のひとひら  
哀歎のかがり火に生きた幾年月の路  
「自分史図書館」は その証言館です。

## 新刊紹介

○朝鮮全土を歩いた日本人  
農学者・高橋昇の生涯

河田 宏 著



私の書棚に、贈呈高橋甲四郎、平成15年9月18日と扉に貼付の一冊『朝鮮半島の犁・高橋昇著』という大冊がある。河田さんの著とおなじ日本評論社からの刊行、定価6600円。この本を拝掌したとき、朝鮮全土の農民が使用した犁が地域それぞれにかく

もバラエティに富んでいたものか、またそれをよくぞこまめに実態調査されたものだと感銘した。

この農学者高橋昇の評伝を、このたび、河田宏氏が筑後八女矢部川のほとり上妻津ノ江生まれの幼少時から敗戦朝鮮よりの引揚げ、1946年55歳での死去、その後の遺稿出版に至るまでの生涯をまとめられた。日本は朝鮮の農業を古くさく遅れたものと見て、日本の方式を押しつけようとした。それに反対、朝鮮全土を踏破、実態を調査し、朝鮮のきびしい風土に即応した驚くべき農法があることを実証した農学者高橋昇の風貌が鮮明に描きだされている。この本のカバーに、質朴な学者のありし日をしのばせる写真、裏にカヤの束を背負う朝鮮のいとけなき少女姉妹の写真がある。この日本の農学者が如何にヒューマンな思いで朝鮮全土に生きる農民に対応されたか、察知され新たな感慨が呼びおこされる評伝である。

(椎窓 猛)

○歌集 藤 (第2集)

黒木短歌会

序に歌人近藤雅美氏

「何と分りにくい短歌が世に満ちあふれている昨今であるが、また言葉を飾ったり、人に阿ることを知らない黒木の仲間たちの素朴、大胆、奔放な、それでいて真実、心のこもった作品は捨て難い。」

刻わすれ立ちつくしたる白鷺は  
思案まとめて飛びたちゆけり  
風さそううす紫の藤の花たゆたいながら  
香りをこぼす  
成人の記念に夫とハナミヅキ植えて息子は  
沖繩へ帰る  
溝蕎麦は母とゆきたる駄菓子屋の  
金平糖に似て優しかり  
老いし今角が取れしと人言ふも吾に実感  
今いち無くて

栗山 勉  
中島 通子  
仁田原陽子  
馬渡 梢  
山口ミユキ

## 受贈図書紹介 ㉔

順次紹介していますが受贈日より多少遅れます。  
あしからずご了承下さい。

画文集孫の所望 …… 白武留康・中村ちひろ 白石町  
詩集 行進曲〈靴〉 …… 東 一秀 佐賀市  
校長先生のお話 …… 永原三千年 千代田町  
家庭崩壊・学級崩壊・学校崩壊 …… 松居 和  
歌集 若葉照る朝 …… 木原 洋子 宮崎市  
八女の方言歳時記 …… 郷田敏男・梅本光男 八女市  
バルビジンの道 …… 高橋甲四郎 八女市

生活にゆとりを住みよい村づくり運動… 榊 正弘 広川市  
私たちの百年…………… 貞刈惣一郎・みどり 太宰府市  
暁よする…………… 八女高第三回生  
木星 第3号・第4号 …… 岡山青年団 八女市  
IN MY LIFE …… 山口 慶子 筑後市  
煥たり吾が人生…………… 川島 憲一 立花町  
ひぐらしが啼き止んで…………… 西村 虎治 鳥栖市  
みかんの花咲く丘 …… 西村 虎治 鳥栖市  
我が農協人生に悔いなし…………… 吉田 政人 筑後市  
みちくさ …… 泉 佐和



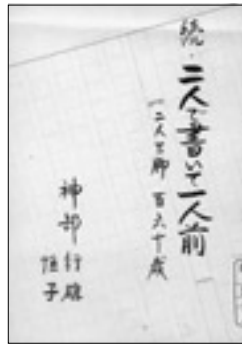
○ 生命への祈り  
—50歳の出発— はがき随筆  
後藤敦子

28年間、ひたすら保育の道走り続けた後藤さん。保母を天職と生き続けた。退職後、体力気力を再充実、こんどは託児所勤め。幼き見らとの生活は幸せ。

こうした暮らしのなかで綴られた生活の記録、その随筆28篇。

—「待つてくれる人」がいるということは、何と素晴らしいことだろう。朝夕、晩秋の山々、川をながめることの楽しみ。—

—託児所で、片言の可愛い子らに囲まれ、食事、排泄の世話、てんてこ舞い。だが日々成長して感動的な瞬間に出会えては、肩こりも忘れてしまう—と。



○ 続・二人で書いて一人前  
二人三脚・百六十歳  
神部行雄・恒子

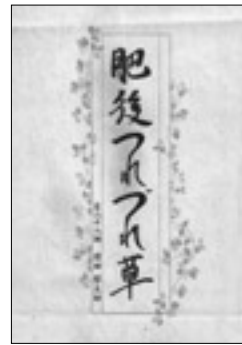
恒子さんの「山東町童謡コンクール」に応募の作品がノミネートされる。

しあわせおにぎり  
かあさんが ごはんを手中で  
ギュッギュッとにぎります  
ほーら おいしそう おにぎりさん

おつぎは塩つけノリまいて  
ギュッギュッくりとまるめます  
はーいできあがりおにぎりさん

審査員は、みなみらんぼう、鷺まどかさんはじめ作曲家に詩人。

山東町とは滋賀県坂田郡。彦根と関ヶ原の中間地点。おにぎりの歌はみごと特別賞。ご主人が町へ同行。その紀行文。おしどり夫婦のたのしい随筆集である。



○ 肥後つれづれ草  
前田哲太郎

—肥後のはずれに暮らし初めて10年、空地で野菜などを育てて暇をつぶしております。友人のホームページに書いていた文章を義弟がまとめてくれました。お暇な折にでも目を通していただければ幸いです。香椎以来、ずいぶんと長い年月が経ったものです。20年2月 椎窓様—

前田さんとの出会いは昭和20年前後。文学仲間が入りしていた友清高志さんの貸本屋で知りあった。当時彼は九大の学生。その後、東京に出て、化粧品会社広告コピーライター。彼はNHKアナウンサー宮田輝さん死去の折、青山斎場でお別れ会台本も書いたといった思い出もつれづれに語っているエッセー集。



○ 井手運送50周年記念誌  
(2007.6月発行)

運送会社のユニークな記念誌。50ページ余のこの一冊に、福岡県南運送史の創始期を読みとることができる。創始者井手久男は明治39年、九人兄弟の三男として、農家に出生。久男は馬を引いての米商ないから、アメリカ製のトラック・ダイヤモンドを購入、「これから物資輸送の時代が来る」と、時代を予見。昭和9年、井手運送店開業。電話も昭和14年引いた。小郡・味坂局3番。これで幅広く商売ができた。戦時中は韓国人を雇ったが差別することなく自宅に住ませ、手厚く母がもてなした。久男は常に「仕事は電光石火。信頼される仕事が一番」というのが口ぐせであった。

トラック”と題して、私“ダイヤモンド・時代であったならば、覚するが、もし壮年の老いてエネルギーが乏しくなって不可能と自覚するが、もし壮年の

ら、ここに男のロマンが想像される。もはや老いてエネルギーが乏しくなって不可能と自覚するが、もし壮年の

の定期検診終了後、筑後市野町の自分史図書館へ廻る。どんな寄贈本があったか、折に見ておかなければと、やはり気がかりなのである。▼この号紹介している「井手運送50周年記念誌」はどなたが、

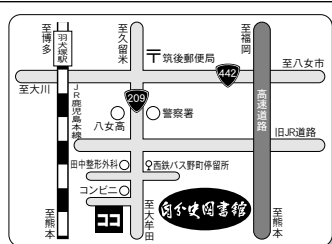
編集掌記

▼早春二月を迎える。二日夜半からのみぞれ、朝、起きてみれば山麓雪化粧。一日、公立病院

小説を書いてみたいよ  
うな素材がこの記念誌  
には内包されている。  
▼このような記念誌を  
所蔵するのも、わが“自  
分史図書館”の特色で  
ある。  
(自分史図書館長 椎窓益)

自分史図書館

入館無料  
開館 午前9時～午後5時  
閲覧希望の方は予め電話で  
ご確認下さい。  
貸し出しはしていません。



〒833-0032 筑後市野町423-8 TEL・FAX 0942-53-8122  
西鉄バス野町停留所より徒歩5分  
インターネットでもご覧になれます。http://www.jibunshitosyokan

